

記録  
16ミリ  
カラー／29分  
日・英語版

- 企画  
中外製薬株式会社
- 学術指導  
北海道大学医学部／  
札幌医科大学／東北  
大学医学部／日本医  
科大学／東京大学医  
学部／東京医科大学  
／東京女子医科大学  
／湯川胃腸病院／鳥  
取大学医学部／九州  
大学医学部／鹿児島  
大学医学部
- 指導  
松尾 裕

スタッフ

- 製作  
村山英治
- 脚本  
杉山正美
- 演出  
二口信一
- 撮影  
豊岡定夫
- 照明  
佐藤 久
- 音楽  
愛場俊彦
- 解説  
川久保 潔  
矢口敏郎（英語版）

消化性潰瘍（胃および十二指腸潰瘍）は、社会生活や環境の複雑化を反映して増加の傾向をたどっている。この映画は、消化性潰瘍の診断と治療に対する当時の新しい試みを紹介したものである。



潰瘍の成因に大きな役割を果たす胃の血流を見てみよう。健康なラットの生き生きした血流は、胃粘膜の保護、再生をつかさどっている。しかし、いろいろな刺激が加わるとこの血流に異常が起こる。ラットを水につけてストレスを与えると、1時間くらいは正常だが2～3時間もたつと胃と血流に停滞が起き始める。最初の出血は4時間後に起きた。自律神経の異常、副腎皮質ホルモン分泌を介して末梢血管の攣縮（れんしゅく）を引き起こしたのだ。

胃液はどのような仕組みで分泌されるのだろうか。食物を見た犬の視覚や嗅覚は、脳の自律神経中枢を刺激して胃液の分泌を促す。自律神経中枢を電氣的に刺激することによって、この反応を胃粘膜上で確かめた。胃液は自分の胃を溶かす力を持っている。そこで消化性潰瘍患者に対しては、塩酸やペプシン（蛋白分解酵素）の働きを抑えなければならないが、塩酸の少ない患者がしばしば発見されることから、ペプシンの働きが注目されてきた。

そして近年、ペプシンの働きを抑える抗ペプシン剤の研究が始まった。特に、わが国で初めて、血液凝固阻止作用等の副作用がなく、抗ペプシン、抗潰瘍効果のあるシヨ糖硫酸エステルが開発され、その効果が確かめられた。シヨ糖硫酸エステルの臨床成績は、制酸剤、自律神経遮断剤、粘膜保護剤等で効果の得られなかった難治性潰瘍にも有効で、ニツシェの過失日数を短縮し、自覚症状にもよく奏効すると報告されている。